

令和 7 年度 村政懇談会（北山地区）開催報告

令和 7 年 11 月 18 日、北山地区構造改善センターにて「村政懇談会（いまトーク）」を開催いたしました。今年度の懇談会は、2050 年の将来推計（人口減少・産業縮小など）という厳しいデータを共有した上で、それを乗り越えるために「いま」地域で何ができるか、行政と住民が共に考える場として実施されました。

当日は 14 名の皆様にご参加いただき、農業、商工、教育、定住対策など多岐にわたる分野で、具体的かつ建設的な意見交換が行われました。

開催概要

- **日時**：令和 7 年 11 月 18 日（火） 19 時 00 分～20 時 30 分
- **場所**：構造改善センター
- **出席者**：地域住民の皆様 14 名、村長、副村長、教育長、総務企画課長、企画室職員

当日の主な議論（概要）

村長より「厳しい推計値を直視し、課題解決のアイデアを共有したい」との挨拶があり、以下のテーマについて議論が交わされました。

1. 商工・雇用・産業振興について

【住民からのご意見】

- **地元企業の周知**：村内にどのような企業や仕事があるのか、住民や子どもたちに十分に知られていない。現在、商工会等で「お仕事図鑑」を作成中だが、子どもたちが将来「村で働きたい」「戻りたい」と思えるよう、事業継承の観点からも周知・啓蒙活動が必要ではないか。
- **企業誘致**：アウトドアブランド（モンベル等）の誘致など、観光拠点の整備による交流人口拡大を検討してほしい。

【村の考え方】

- 中学生向けの企業訪問や会社案内は非常に有意義です。企業誘致については、近隣市町村の事例も参考にしながら、積極的な働きかけを継続します。また、村内求人情報のミスマッチ解消にも努めます。

2. 農業振興・耕作放棄地対策について

【住民からのご意見】

- **条件不利地への対応**：大塩地区など山間部の農地は区画が悪く、大型機械の導入が困難である。コスト高騰と後継者不足の中で、規模拡大は限界がある。
- **行政サポートの強化**：近隣自治体に比べ、国や県の補助金情報の収集・提案力が不足していると感じる。職員は専門知識を深め、農家に有利な助成情報を積極的に提案してほしい。

- **農地保全**：一度荒れた農地を元に戻すのは困難であるため、早急な対策が必要。移住者への農業体験や農地貸出など、新しい担い手確保の仕組みも検討すべき。

【村の考え方】

- 山間地農業の厳しさは認識しており、(農業) 地域計画の中で対策を検討します。また、休耕地・荒廃農地対策については改めて調査を行い、早急に対応を協議します。

3. 定住・移住・生活環境について

【住民からのご意見】

- **若者が戻らない理由**：自然の魅力だけでなく、「仕事の有無」「生活の利便性（店や交通）」が整わなければ、一度出た若者は戻りにくい。
- **生活基盤の整備**：安心して暮らせる収入や仕事の保証、子育て支援などのメリットを具体的に提示する必要がある。

【村の考え方】

- 企業誘致活動を継続するとともに、子育て支援策の充実など、村で暮らすメリットをアピールしていきます。また、労働力不足に対しては外国人材の活躍など、現状のミスマッチ解消にも取り組みます。

4. 教育・地域づくりについて

【住民からのご意見】

- **郷土愛の醸成**：子どもたちが将来村に戻りたくなるよう、学校教育と地域文化（文化祭や神楽など）の交流を深めることが重要。地域住民との触れ合いが愛着を育む。

【村の考え方】

- 学校での「郷土理解学習」や、地域行事への参加を通じて、子どもたちが地域への誇りを持てるような教育を推進しています。今後も地域と学校が連携した活動を支援します。